

## 心豊かな暮らしのある村

～山里の「智」と「技」から創造する持続可能なむらづくり～

### 福岡県東峰村

#### 東峰村の紹介

東峰村は、福岡県中央部の東端にあって、大分県との県境に接し、地形は南側を除く3方向を標高500m以上の山々に囲まれ、その中央部をこれらの山を源とする清流大肥川おおひがわが流れるのどかな里山です。



北端にある小石原盆地は、標高460～480mで湖底盆地と言われ、盆地内5つの小河川を集めて小石原川が西流し、江川ダムえがわダムの水源となっています。現在は、国の水資源開発基本計画により、平成31年度を完成予定として、江川ダム上流に多目的役割を担う小石原川ダムが建設中です。

これら東峰村を源流とする川はいずれも筑後川に集められ、遠く有明海に注いでいます。年間雨量は約2,000mmと多く、地味も肥沃で美林が多いのが特徴です。冬季には積雪を見ることが多く、夏季は25～26℃と涼しくなっています。

#### 地域に学ぶ「智」環境を守り、育てる村

##### 筑後川源流の碑

～筑後川源流から

143kmの旅～

筑後川は、東峰村に発する小石原川、大肥川を源流の一つとして筑後平野を貫流し、有明海まで143kmの旅をします。この豊かな筑後川は、流域に暮らす多くの人々や生き物に、さまざまな恵みをもたらす育んできました。筑後川源



流の碑は、この上流域・中流域・下流域で暮らす人々が交流し、源流を守る象徴として建立されました。

##### 行者の杉 涵養保全の樹林

小石原地区さしやまの皿山には、樹齢200年から600年の人工林群落として国内有数の美しい樹林「行者の杉」があります。皿山には室町時代に建てられたといわれる「役の行者」の像を祀った行者堂えんどうがあり、行者の杉は、筑前方面から英彦山ひこさんに入山する修験者（行者）たちが、この地において身を清める行いをした時に、行者堂のまわりに杉の木を献木として植樹したのが始まりと伝えられています。



「行者の杉」の中に大王杉と呼ばれているものがあり、この木は樹高52m、幹周829cm、推定樹齢600年で林野庁の「森の巨人たち百選」に選ばれています。

##### 竹地区の棚田（日本の棚田百選）

400年もの歴史がある石積みの棚田。先祖代々守り続けられ、最も古い石垣は、安土・桃山時代のものだと言われています。

6月には田植え体験も行っており、そのあとに食べる棚田米のおにぎりや山菜料理は別格です。この頃は、ホタルの光を楽しむこともでき、幻想的な世界が広がります。



### 岩屋湧水（平成の名水百選）

岩屋湧水はJR日田彦山線の筑前岩屋駅横にある、釈迦岳トンネル掘削の際に湧き出た湧水です。硬度約30度の軟水で、クセのないまろやかさが特徴です。和食・コーヒー・お茶などによく合うと好評で、連日多くの水汲み客で賑わいます。

平成20年6月には「平成の名水百選」として、福岡県では唯一環境省からの認定を受けています。

### 環境美化の日

東峰村では、河川をきれいにする条例を平成19年に制定し、河川浄化の推進のひとつとして、村全域において5月には道路・河川愛護、9月には環境美化の日を設定し、河川愛護の啓発と美化活動を行っています。

## ■豊かさを創出する「技」

### 【高取焼】

慶長5（1600）年、黒田長政に招かれて渡来した陶工・八山が、鞍手郡鷹取山くらてぐんに開窯したのが高取焼の始まりです。



小石原地区における高取焼は、寛文5（1665）年に八山の子、八蔵が遠州高取の技を携え、鼓の釜床つづみに藩御用の御焼物所を開いたことに始まります。名茶人・小堀遠州好みの茶陶窯で、遠州七窯のひとつとして知られ、高麗風のきらびやかさにさびを求めた作風は「綺麗さび」と呼ばれ、気品に満ちています。



### 【小石原焼】

天和2（1682）年、黒田三代藩主光之が、小石原中野に肥前伊万里いまりの陶工を招いて大陸風の磁器を伝え、この頃

すでにあった高取焼とこの窯が交流することにより、中野焼（小石原焼）は形成されていきました。

かつては皿山を中心に、9戸の共同窯による世襲制をとり、大正から昭和のはじめ頃までは英彦山参拝のみやげの徳利や大型甕、鉢、すり鉢など荒物製品づくりがほとんどでしたが、その後民芸運動の柳宗悦やなぎむねよし、バーナード・リーチらによって全国で紹介

され、茶碗、湯呑、小鉢などの生活の器へと転換していきます。昭和33年ブリュッセルで開かれた世界工芸品展でのグランプリ受賞、昭和50年には伝統的工芸品に指定されました。

小石原焼には、飛びカンナ、はけめ刷毛目、化粧掛け、くしがき櫛描、打掛け、流し掛けなどの独特な装飾技法があり、約50軒の窯元がそれぞれの伝統を守りながら新しい作風を求め、日々作陶を続けています。

毎年、5月の連休と10月には春、秋の「民陶むら祭り」が開催されます。窯元が一斉に窯開きをするこの機会に、小石原焼を求めて全国から多くの人を訪れます。

## ■歴史を訪ねる 軍師「黒田官兵衛」ゆかりの地

### 【松尾城跡】

#### （県史跡）

松尾城跡は、小石原地区の城山にあります。戦国時代、ほうしゆやま宝珠山山城



守の居城であったと伝えられ、主郭は石垣と土塁が巡らされ、西側に虎口が造られています。

慶長5（1600）年、黒田長政が関ヶ原の戦いの功によって豊前中津から筑前に入国した後は、黒田家の支配下となります。翌年、黒田氏は福岡本城の築城と同時に国境防衛のため6ヶ所の出城を設け、それぞれに重臣を配して守備につかせました。このとき松尾城3700石を任せられたのが、黒田（中間）六郎右衛門統胤でした。その後、松尾城は元和元（1615）年、幕府の一国一城令により取り壊されました。

## ■古と新が調和する村

平成17年3月に旧宝珠山村と旧小石原村が合併し、「東峰村」は誕生しました。東峰村は豊かな自然と環境に恵まれ、窯元巡りや森林散策など一年を通じて楽しく遊べ、古と新が見事に調和する村です。そこには、懐かしくもあり新鮮な美しい日本の原風景があるのです。